

第一問（40点満点）

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A
B
C
D
自明な前提としての世界を对象的に把握する「知る」と、自明な前提自体を疑う場所から世界の意味を把握しようとする「考える」の差異。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「自明な前提としての世界」…2点

■要素B 「对象的に把握する」…2点

■要素C 「自明な前提自体を疑う」…2点

■要素D 「世界の意味を把握しようとする」…2点

■要素E…文末表現は「……差異。」という形が原則。「……差異のこと。」「……」という違い。」なども許容。また、「知ることとはくだが、考えることとはく。」という形も許容する。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A	日常的に慣れ親しんだ世界における、	B	日々生起する目新しい事件を	C	気晴らしに消費するだけで	D	
E	思考の動力に結びつくことのない驚きのこと。						

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「日常的に慣れ親しんだ世界における」…2点

■要素B 「日々生起する目新しい事件」…2点

■要素C 「気晴らしに」…1点

■要素D 「消費するだけで」…1点

■要素E 「思考の動力に結びつくことのない」2点

■要素F …文末表現は「……こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 自明性への驚きによって知性的な思考が始まるが、その驚きのためには知性的な思考が必要
B
C
D であり、これらは一つの循環であるから。

- 採点方法…各要素単独採点

■要素A「自明性への（驚き）」…2点

■要素B「驚きによって知性的な思考は始まる」…2点

■要素C「その驚きのためには知性的な思考が必要」…2点

■要素D「これらは一つの循環である」…2点

■要素E…文末表現は「……から。」「……ため。」「……ので。」「……という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・ 字数が一〇〇字に満たない場合、加点なし。
- ・ 文末表現は要素E参照

基準 配点13点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 哲学の使命は世界を対象的に把握することではなく、^B世界の意味を根源的に考えることであり、^Cそのために驚く力をよびますことだが、^D肝心なのはその過程で生産される知識よりも、^Eそうした知識を生み出し続ける力、^Fすなわち自明なものに驚く能力だということ。

■採点方法…各要素単独採点

- 要素A 「哲学の使命は世界を対象的に把握することではなく」…2点
- 要素B 「(哲学の使命は) 世界の意味を根源的に考えること」…2点
- 要素C 「(哲学の使命は) そのために (真実に考えるために) 驚く力をよびますこと」…2点
- 要素D 「肝心なのはその過程で生産される知識よりも」…2点
- 要素E 「(肝心なのは) そうした知識を生み出し続ける力」…3点
- 要素F 「自明なものに驚く能力」…2点
 - ・ 十二〜十三段落の内容に対応する要素。
 - ・ 「驚く能力」、「真実の驚き」、「この世界への驚き」、「思考の驚き」、「理性による驚き」など、「自明性への驚き」というニュアンスを含まない表現の場合、加点なし。
- 要素G …文末表現は「……こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

問五 漢字の書き取り 各1点×3

a 逸脱

b 際限

c 催眠

第二問 (一) 文科ア・理科ア 傍線部を現代語訳せよ。

- 問題 10ページ、第1段落の傍線部(文科ア・理科ア)を現代語訳する問題。
- 文末表現は、要素Bにあるとおり。
 - ・句読点の抜け、書き誤りは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A1 あから目もせず **B2** まもれば、

- 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A1 よそ見もせずに **B2** じっと見つめていると、

■ 採点方法 各要素単独採点。

■ 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【1点】よそ見もせずに

要素B【2点】じっと見つめていると、

第二問 (一) 文科工・理科ウ 傍線部を現代語訳せよ。

■ 問題 11ページ、第2段落(11ページ2行目)の傍線部(文科工・理科ウ)を現代語訳する問題。

- 文末表現は、要素Cにあるとおり。
- ・ 句読点の抜け、書き誤りは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A1おのづからB1仕る事C1にや候ふらむ。

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A1たまたまB1いたした事C1ではありませんでしょうか。

- 採点方法 各要素単独採点。
- 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【1点】 たまたま

要素B【1点】 いたした事

要素C【1点】 ではありませんでしょうか。

第二問 (一) 文科才・理工工 傍線部を現代語訳せよ。

■ 問題 11ページ、第2段落(11ページ3行目)の傍線部(文科才・理工工)を現代語訳する問題。

- ・文末表現は、要素Bにあるとおり。
- ・句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A2 いたづらなる地B1候ふ。

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A2 使われていない土地がB1でございます。

■ 採点方法 各要素単独採点

■ 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【2点】使われていない土地が

要素B【1点】でございます。

第二問 文科(二)「文科のみ」

「浅黄の上下着たる翁」(傍線部イ)は何のために宰相の前に現れたのか、説明せよ。

- 問題 10ページ、第2段落の傍線部イ「浅葱の上下着たる翁」が、宰相の前に現れた理由を、次のポイントをもとめて説明する問題。

※まとめるポイント

・第2段落3、4行目の翁の発言

「年ごろ住み候ひつる所を、かく居しめ給へば、大きな嘆きと思ひ給へて、愁へ申さむがために参りて候ふなり」

- 文末表現は「ため」が望ましいが、「何のために」の説明になっていればそれ以外でもよい。
- ・句読点の有無などは不問。

- 基準 配点【5点】

- 傍線部 浅葱の上下着たる翁

- 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A2長年住んでいた所に**B2**宰相が来たので困惑し、**C1**そのことを宰相に訴えるため。

- 採点方法 各要素単独採点。

- 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【2点】長年住んでいた所に

要素B【2点】宰相が来たので困惑し、

要素C【1点】そのことを宰相に訴えるため。

第二問 文科(三)・理科(二)

「汝が愁へ頗る当たらず」(傍線部 文科ウ・理科イ)と云うのはなぜか、説明せよ。

- 問題 10ページ、第2段落の傍線部(文科ウ・理科イ)「汝が愁へ頗る当たらず」と、宰相が翁に言った理由を、次のポイントをまとめて説明する問題。

※まとめるポイント

・傍線部(文科ウ・理科イ)直後の宰相の発言

「その故は、人の家を領する事は次第に伝えて得る事なり。しかるを、汝、人の伝えて居るべき所を、人を脅かして住ましめずして、押し居て領する、極めて非道なり。」

・右の箇所の「次第に伝えて」は、注に「手順を踏んで引き継いで」と説明がある。

- 文末表現は「から・ため・ので」などが望ましいが、「なぜか」の説明になっていればそれ以外でもよい。

・句読点の有無などは不問。

- 基準 配点【5点】

- 傍線部 汝が愁へ頗る当たらず

- 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A3 邸を引き継ぐには手順を踏むべきであり、勝手に住みつくのは**B2** 非道であるから。

- 採点方法 各要素単独採点。

- 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【3点】 邸を引き継ぐには手順を踏むべきであり、勝手に住みつくのは

要素B【2点】 非道であるから。

第二問 文科(四)「文科のみ」

「これ、極めて賢き事なり」(傍線部カ)を、「これ」の中身がわかるように現代語訳せよ。

- 問題 11ページ、第2段落の傍線部カ(11ページ4行目)の傍線部カ「これ、極めて賢き事なり」を、「これ」の指示内容を次のポイントによって補いつつ、現代語訳する問題。

※ 「これ」の指示内容を補うポイント

- ・ 傍線部カの前(11ページ3〜4行目)の翁の発言
「大学の南の門の脇なむ、いたづらなる地候ふ。その所へまかり渡らむはいかが」
- ・ 右の箇所「大学」は、注に「大学寮。官吏養成機関」と説明がある。

- 文末表現は、模範解答にあるとおり。
- ・ 句読点の抜け、書き誤りは不問。

- 基準 配点【5点】

- 傍線部 **A3**これ、**B2**極めて賢き事なり

- 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A3 大学寮の南門の脇の空き地へ移るといふのは、**B2** 実に賢明なことである。

- 採点方法 各要素単独採点。

- 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【3点】 大学寮の南門の脇の空き地へ移るといふのは、

要素B【2点】 実に賢明なことである。

第二問 文科(五)・理科(三)

「いささかに怖ろしき事なくてやみにけり」(傍線部 文科キ・理科オ)とあるが、宰相がどのような人物であったためか、本文全体の内容を踏まえて、説明せよ。

■ 問題 11ページ、第3段落の傍線部(文科キ・理科オ)に「いささかに怖ろしき事なくてやみにけり」について、屋敷に化け物が出なくなった理由として、宰相がどのような人物であったためかを、次のポイントを踏まえて説明する問題。

※踏まえるポイント

以下は、**A3**「思慮深く賢い人」の根拠となるポイント。

- ・宰相仰せて言はく、「汝が愁へ頗る当たらず。その故は…そのことわり、確かに申せ」。(第2段落 4～7行目)
- ・心賢く智ある人のためには、鬼なれども悪しき事もえ発こさぬ事なりけり。(最終段落 1行目)

以下は、**B3**「化け物の出現に対してもまったく動じない人物」の根拠となるポイント。

- ・宰相、それを見れども騒がずして居たれば(第1段落 2行目)
- ・宰相、あから目もせずまもれば(第1段落 4～5行目)
- ・宰相、騒がずして居たる(第2段落 1行目)
- ・宰相声をあげて、「何事申す翁ぞ」と問へば(第2段落 2行目) など

■ 文末表現は「人物」や「ため」が望ましいが、「どのような人物であったためか」の説明になつていればそれ以外でもよい。

・句読点の有無などは不問。

■ 基準 配点【6点】

■ 傍線部 いささかに怖ろしき事なくてやみにけりず

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A3 思慮深く賢い人で、**B3** 化け物の出現に対してもまったく動じない人物。

■ 採点方法 各要素単独採点。 ■ 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【3点】 思慮深く賢い人で、

要素B【3点】 化け物の出現に対してもまったく動じない人物。

(一)

a 今にも b 日が暮れ a ようとする中で (2点)

a 「将に…んとするに」の訳……1点

※「今にも……ようとする中で」

※「今まさに……ようとして(いつ)」

※「まさに……ようとして」

※「……ようという時(ころ)に」

※「今にも……ようとする」と終止しているものは×

※下へ続く形が必要。

など○

b 「タならん」の訳……1点

※「日が暮れ(ようとして)」

※「夕刻にな(ろうとして)」

※「夕方にな(ろうとして)」

※「タベにな(ろうとして)」

※「暗くな(ろうとして)」

など○

b $\frac{a}{2}$ にわかに $\frac{b}{2}$ 思ひ立って (2点)

a 「卒爾として」そのもの訳……2点

※「にわかに」
※「とつぜん」
※「ついに」
※「結局」
※「軽率に」

なご○
なご×

b 不問とするが、**a** 「にわかに」がなくても、

「思ひ立って」
「思ひ立って」
「思ひ立って」

があっても○とする。

c 年齢の a b どどまることのないのを (2点)

a 「年の」の訳……1点

※「年齢が(の)」「になっっていないものは×

※「齡(よわい)が」でもよい。

※「年が」

※「年月が」

は×

b 「留まらざるを」の訳……1点

※「どどまることのないのを」

※「どんどん過ぎてゆくのを」

※「止まらなうこと」

など
○

※「〜のを」「〜こと」のように下へ続かない形は×。「どどまることなく」「どどまらなう」など。

(二) (文科のみ)

五十になり、^a 自分の人生も終わりが近いことを思うと^b、^c心が揺れて、^d正月のよい時節に、^e

こうして隣人と斜川に出かけてきた。³ (10点)

a 「開歳倏ち五十」の要素……1点

※「五十になり」

※「五十歳になって」

※「年が明けて五十になり」

※「正月になって五十になり」

など○

※ここで「正月」の件に触れていれば d は「よい時節」があれば○

b 「吾が生行(ゆくゆく)帰休せん」の要素……3点

※「之(これ)を念(おも)へば」に相当する。

※「自分の人生も終わりに近いことを思うと」

※「自分もいよいよ死期が近いことを思うと」

※「我が命もそのうち尽きることを思うと」

など○

※ c に続く形が自然であれば「思うと」はなくて可。たとえば、「自分もいよいよ死期が近いことに」↓「心が揺れて」など。

※「帰休」を「故郷に帰って休む」などにしているのは×

c 「中懷を動かし」の要素……1点

※「心が揺れて」

※「心は動揺し(させられ)

※「心をゆさぶられ(て)」

※「胸中が揺れて」

※「胸がさわいで」

など○

d 「辰に及んで」の要素……2点

※「正月五日、天氣澄和し、風物閑美」な「辰(とき)」である。

※「正月」の要素

……1点

※「辰に及んで」(「辰」は注アリ)

……1点

とする。

※ a で「正月」になったことに触れていれば、「辰に及んで」だけで2点とする。

e 「茲の遊を為す」の要素……3点

※「二、三の隣曲と同(とも)に斜川に遊ぶ」に相当する。

※「天氣澄和し、風物閑美」の要素がここに入っているもよいが、d の「よい時節」にまとめられもするので、なくても可。

※こうして隣人と斜川に出かけてきた」

※「二、三の隣人と斜川に遊びにきた」

※「頼もしい隣人と川遊びに出かけた」

※「近所の人と斜川で遊ぶことにした」

など○

※「隣曲」の要素の不足は△1点。「友人と」「知り合いと」など。

(三) 理科は(二)

a 今後、再び ² b このような楽しい機会が ³ c あるかどうかわからない ² d ということ。 (7点)

a 「今より去りて復た」の要素……2点

- ※「今後、再び」
 - ※「これからまた」
 - ※「今後、また」
 - ※「この先、再び」
- など○

- ※「今より去りて」の要素 ……1点
 - ※「復た」の要素 ……1点
- とする。

※「復た」の要素は b・c のどこかにあってもよい。

b 「此のごとくなる」の内容……3点

※一行の設定なので、「このような楽しい機会」としたが、可能であれば具体的に書いてあっても可。

- ※「このような機会(時間)の要素 ……2点
 - ※「楽しい」「幸せな」「よい」「など」の要素 ……1点
- とする。

- ※「このような楽しい機会が」
 - ※「このようなよいことが」
 - ※「このように幸せな時間が」
 - ※「このように酒を交わし楽しむことが」
- など○

- ※「このようなことが」
 - ※「こんな時が」
- など△—1点

c 「未だ知らず」「当に…べきや不(いな)や」の要素…2点

「未だ知らず」(わからない)「の要素

…1点

「当に…べきや不や」あるかどうか(「の要素 ……1点

とする。

※「あるかどうかわからない

※「ないかもしれない

※「すぐせるかどうかわからない」

※「(〜)ことが(できる)のだろうか」

など○

※「まだ…ない」の「まだ」はないほうがよいが、入っていても減点しない。

d 文末の「〜ということ」の有無は不問とする。

(四) 理科は(三)

a 明日のことはどうでもいいから、³ 今日を十分に楽しもう、⁴ c ということ。^c (7点)

※ a・b の順はどちらでもよい。

a 「明日は求むる所に非ず」の要素……3点

※「明日のことはどうでもよい」

※「明日(のこと)を思いわずらうまい」

※「明日がどうなるかはわからない」

※「明日のことは考えまい」

※「明日のことはわからない」

など○

※「明日は求められない」

※「明日は求めるものではない」

は△-2点。

b 「且く今朝の楽しみを極めん」の要素……4点

※「今日を十分に楽しもう」

※「今の楽しさを大切にしよう」

※「今日の楽しさを極めよう」

※「今ある楽しみを極めよう」

など○

※「今朝」でも可とする。

※「今日の遊びの楽しさ」のように、斜川に遊んだこと、客人と酒をくみかわしたこ
となどの具体的なことは不要だが、入っていても減点はしない。おそらく一行で収ま
らないはずであるが。

c 文末の「〜ということ」の有無は不問とする。